

## IV 溪流生態系の再生

### <主要施策の取組状況>

#### 1 溪流生態系の調査モニタリングと保全・再生手法の検討

- ・ 溪畔林整備を行った箇所について、植生調査等の事後調査を行った。また、モニタリング結果に基づき、「溪畔林整備の手引き」の原案を作成し、溪流生態系保全・再生手法の検討を進めた。
- ・ 溪流環境調査として、溪畔林整備を行っている河川で魚類調査、餌資源調査などの定点調査を行うことで、溪畔林整備の効果を評価する調査手法を検討するとともに、魚類や底生生物、落下生物、流下生物と周辺の溪畔林環境について、溪畔林整備事業の効果評価に資する指標の検討を行なった。また、溪畔林の繁茂状況の指標となる樹冠と水生生物の餌料となる付着藻類との関係を調べたところ、開空度(樹冠により空が覆われていない部分の割合)が高いほど付着藻類量が多いことが明らかになった。ただし、樹冠がほとんどない東沢と用木沢については、付着藻類が少ないことから付着藻類量は日照量だけではなく、流量や水温にも影響を受けると考えられた。
- ・ 酒匂川水系の丹沢在来ヤマメが生息すると考えられる支流において、NPO とともに産卵場を造成し、産卵が確認された。(VI希少種の保全再掲)

#### 2 溪流生態系の保全・再生事業の実施

- ・ 治山工事(18箇所)を実施、ダム湖等への土砂流出の防止が図られた。
- ・ 溪畔林整備として笹子沢及び大滝沢の2流域で間伐(17.10ha)や植生保護柵設置(244m)、丸太筋工等の土壌保全工(892m)を実施した。
- ・ 下層植生衰退地において植生保護柵を主な工種とする土壌保全工の施工を7.7ha実施した。(Iブナ林再生、Vシカ等野生動物の保護管理再掲)

○ダム湖堆砂抑制等のための土砂流入防止対策等実施状況(平成27年度)

砂防工事	治山工事
なし	18箇所

○平成26年度溪畔林整備事業実施状況(笹子沢及び大滝沢流域・平成27年度)

本数調整伐等	植生保護柵設置	丸太筋工等土壌保全工
17.1 ha	244 m	892 m

溪畔林整備施工地（大滝沢）



溪畔林整備施工地（笹子沢）



溪流環境調査（底生生物調査）実施状況



○溪流生態系の再生に関する事業実施場所（位置情報のある事業のみ掲載）

